

都心に近く、
残していきたい豊かな自然と
人のやさしさがある東久留米

みんながいきいきと暮らし
活力あふれるこのまちを、
50年後、さらにその先の未来へ



市制施行50周年記念ロゴマーク



東久留米市

東久留米市役所

東京都東久留米市本町3-3-1 042-470-7777(代表)

<https://www.city.higashikurume.lg.jp>

2020年10月発行 発行:東久留米市 制作:株式会社けやき出版



人と自然に

寄り添うまち

東久留米



市制施行50周年記念ロゴマーク

東久留米市紹介パンフレット

ようこそ 東久留米市へ

東久留米市は、武蔵野台地のほぼ中央にあり、
都心から電車で30分ほどのベッドタウンでありながら、
環境省の「平成の名水百選」に都内で唯一選定された
「落合川と南沢湧水群」に代表されるような豊かな水環境に恵まれたまちです。
湧水や清流に象徴される水や緑と土が織りなす風景は、東久留米市の誇りです。
そして、2020年、東久留米市は市制施行50周年を迎えました。
50年後、さらにその先の未来にも、このまちの魅力が
引き継がれるようにと願いを込めて、
このパンフレットを刊行します。



① しんやま親水広場



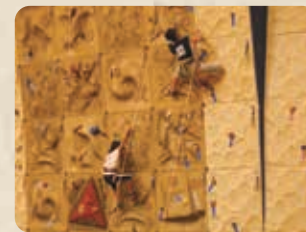
② 黒目川の最上流域



③ 南沢湧水群



③ 上の原地区



④ スポーツセンター



⑤ 竹林公園



⑥ 富士見テラス



⑦ 市役所

人口

令和2年9月1日現在

117,033人 55,313世帯

面積

12.88 km²

市章



「東久留米」の「ひ」の字をメカニックにデザインし、円という静止の状態から外へ飛躍しようというイメージを表現し、新しく発展していく東久留米市を象徴しています。

市名の由来

「久留米」という名前は市内を流れる「久留米川（現在の黒目川）」から付けられたというのが一般的な説です。その後、市制が施行される際、福岡県の久留米市との混同を避けるためや、町民から駅名として親しまれていた「東久留米」を希望する声もあり、「東久留米市」という名前に決定しました。

市の木



イチョウ

市の花



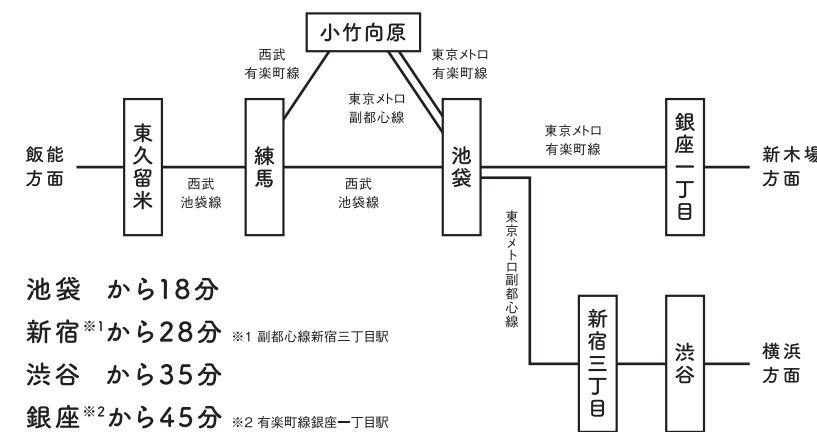
ツツジ

市の鳥



オナガ

都心方面からのアクセス



まちを彩る

見て触れて感じる四季

鮮やかな緑、透明な水、澄んだ空気…
 生活のすぐそばにある彩り豊かな自然。
 東久留米の自然は、四季を通じて、
 見るもの・触れるものに喜びを与え、
 心を豊かにしてくれます。



上の原東公園

“自然と調和した複合多機能都市”を目指したまちづくりが進む上の原地区に新たに整備された公園。／上の原2丁目3番（東久留米駅東口からバス約8分、下車徒歩約3分）

柳久保小麦の麦畑

市内で盛んな小麦栽培。こがね色の穂が実る初夏に収穫を迎えます。／市内各所



黒目川沿いの桜

黒目川に架かる神山大橋付近の桜。春には遊歩道に花びらのじゅうたんができます。／大門町2丁目（東久留米駅東口から徒歩約11分）



白山公園

公園を囲むように桜並木が続く市内随一のお花見スポット。／滝山7丁目24番（東久留米駅西口からバス約9分、下車徒歩約5分）



いこいの水辺

子どもから大人まで、水遊びや生きもの探しに夢中になる落合川の浅瀬が広がる親水エリア。／南沢1丁目（東久留米駅西口から徒歩約9分）



村野家住宅

例年、春・秋に特別見学会を実施。歴史情緒あふれる敷地内で紅葉が楽しめます。／柳窪4丁目15番（東久留米駅西口からバス約15分、下車徒歩約10分）



南町緑地保全地域

東側には畑、南側には新田集落の屋敷林が広がる約1.1haの広大な敷地で、美しい落葉樹が見頃を迎えます。／南沢3丁目（東久留米駅西口からバス約10分、下車徒歩約11分）



日中の富士山



黒目川上流域遊歩道

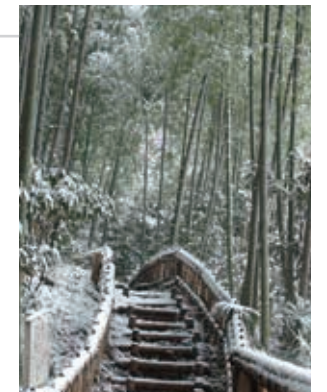
柳橋下流の「しんやま親水広場」付近ではイチョウが色づきます。／下里4丁目（東久留米駅西口からバス約9分、下車すぐ）

AUTUMN

WINTER

竹林公園

駅から歩くと落合川を渡ってすぐ。「新東京百景」に選ばれた静かな空間に癒されます。「東京の名湧水57選」にも選定されています。／南沢1丁目7番（東久留米駅西口から徒歩約12分）



新東京百景

「都民の日」の制定30周年を記念し、昭和57年（1982年）に都民公募により選ばれた都内100の風景。歴史ある建造物や豊かな自然のある公園など、さまざまな名所が選定されています。



都立六仙公園

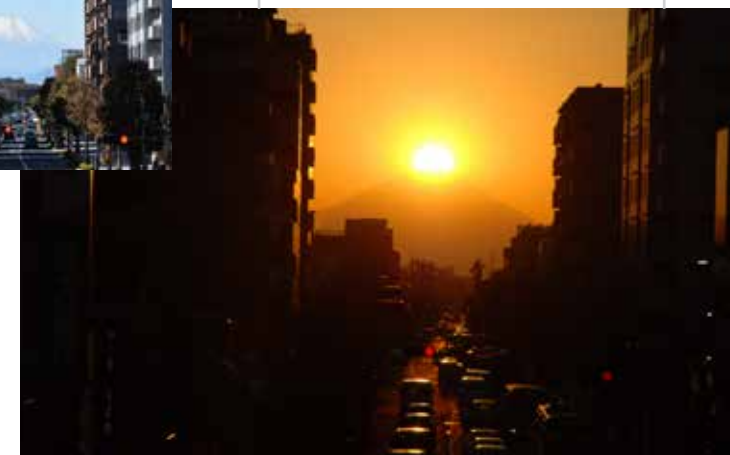
北多摩地区における緑の拠点とするべく計画された公園。防災機能を持った公園として整備される予定です。／中央町3丁目（東久留米駅西口からバス約3分、下車徒歩約15分）

関東の富士見百景

富士山への良好な眺望を得られる地点を選定し、周辺の景観の保全や活用への支援を通じて、美しい地域づくりを推進することを目的として、平成17年（2005年）に国土交通省関東地方整備局主催で選定が実施されました。

ダイヤモンド富士

山頂に太陽が重なる1年に数日限定の光景。冬至前後になると、「関東の富士見百景」にも選ばれている、駅の「富士見テラス」に大勢の人が訪れます。／富士見テラス：本町1丁目4番（東久留米駅併設）



水とふれあうまち

武蔵野の自然を色濃く残し、貴重な清流と湧水群を持つ東久留米。
この豊かな水は、人とのかかわりの中でさまざまな顔を見せます。
水辺には生きものたちが集い、子どもたちの笑い声も聞こえてきます。
このまちの元気の源となる大切な水です。

南沢湧水群

落合川の水源である南沢湧水群では、南沢緑地保全地域から1日約1万トンの湧水が流出しています。昔ながらの武蔵野の雑木林につつまれ、清冽な湧水が一年中枯れることなく、こんこんと地表に溢れ出ている場所です。南沢緑地は環境省の「平成の名水百選」と東京都の「東京の名湧水57選」に選ばれています。



平成の名水百選

水環境保全の一層の推進を目的に、昭和60年(1985年)選定の「名水百選」に加え、平成20年(2008年)に環境省が選定した新たな名水。地域の生活に溶け込んでいる清澄な水や水環境の中で、特に地域住民等による主体的かつ持続的な水環境の保全が行われている場所が対象です。



さいかち窟

雑木林の奥に黒目川の源流である「さいかち窟」があり、窟の出口まで行くと水路の痕跡が残っています。普段は水のない窟地ですが、雨量が多い年には湧水が出現します。最近では、平成30年(2018年)、令和元年(2019年)に出現しています。

野火止用水

野火止用水は、承応4年(1655年)に徳川幕府老中の松平伊豆守信綱によって開削された用水路で玉川上水の分水です。昭和48年(1973年)に分水が停止されましたが、翌年には東京都が隣接する雑木林とともに、野火止用水歴史環境保全地域に指定。昭和59年(1984年)に流れがよみがえりました。

東京の名湧水57選

湧水に対して関心を持っていただくとともに、湧水の保護と回復を図るため、水量や水質、その湧水にまつわる由来、あるいは周辺の景観などに優れた湧水等57カ所を「東京の名湧水」として東京都が平成15年(2003年)に選定しました。



柳窪天神社前の湧水

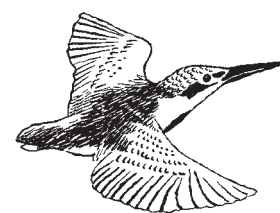
柳窪天神社前に湧いた黒目川の貴重な水源。「東京の名湧水57選」に選ばれており、近接した屋敷林や社寺林と合わせ、神社の参拝者や緑地を散策する人々に静かな安らぎを提供しています。柳窪天神社/木々に囲まれた階段上の神社。境内には市の有形文化財に指定されている柳窪梅林碑があります。柳窪4丁目15番(東久留米駅西口からバス約16分、下車徒歩約14分)

水辺に生息する生きもの



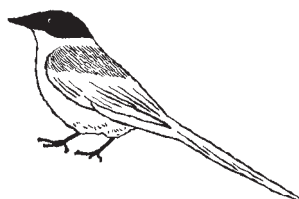
オナガカモ

冬鳥として国外から飛来する渡り鳥。3月末まで落合川や黒目川で群れている様子が見られます。



カワセミ

光沢のある青緑色の背中とオレンジ色の腹部が美しい鳥。水辺の枝にとまり、魚を見つけると一気にダイビングして捕まえます。



オナガ

長い尾っぽに水色の翼、黒い帽子が特徴です。オナガ同士は仲が良く、力を合わせて事に当たるといった習性があり、市の鳥にも選ばれています。



ホトケドジョウ

身体はずんぐりしており、口ヒゲは4対あり、お腹が赤いのが特徴。湧水を好む希少な魚です。

しんやま親水広場

黒目川上流域には、水辺で遊べるスポットも。柳橋から宮裏橋の間にある「しんやま親水広場」が人気。/下里4丁目1番(東久留米駅西口からバス約15分、下車徒歩約3分)



黒目川

東久留米市柳窪のさいかち窟を源とする全長17.3kmの河川。河岸には下里本邑遺跡や小山台遺跡などがあり、大昔より人々の生活に欠かせない大切な水です。



落合川いこいの水辺

落合川は、夏場は子どもたちの格好の遊びの場となっています。ホトケドジョウがすみ続けられるような環境づくりのため、市民による清掃、草刈などのボランティア活動が今も続けられています。



このまちのにぎわい このまちの魅力

威勢のいい掛け声が響く祭り、軒先に並ぶ色とりどりの野菜、歴史を感じさせる建造物など…人と自然を感じ、互いのきずなを大切にするのが、このまちの魅力の一つ。

EVENT



市民みんなのまつり

毎年11月に開催される商工祭と農業祭をあわせた一大イベント。東久留米音頭、野菜の宝船、御輿など、2日間にわたり会場がにぎやかな声に包まれます。



南沢獅子舞

4年に1度演じられる伝統芸能。獅子が笛や太鼓に合わせて勇壮に舞います。市指定の無形民俗文化財にもなっています。



環境フェスティバル

毎年6月に行われる市内最大規模の参加型・体験型の環境イベント。タイヤボートを川に浮かべる「トムソーヤの川下り」が人気です。



七福神めぐり

宝泉寺、多聞寺、米津寺、大園寺、浄牧院の市内5カ所の寺院を歩いてめぐる新年開運ウォーキング。市指定有形民俗文化財の地藏菩薩（宝泉寺内）や市内最古の庚申塔（大園寺内）も見応えがあります。

FOOD

特産品

市内で栽培された柳久保小麦を使ったかりんとう、うどん、パン、ラーメン、ご当地グルメ「煮いだんご」などの商品が多数。特産品として市民に愛されています。



MARKET



農産物直売所

市内に80カ所以上点在する農家の直売所。採れたての野菜や果物、花が購入できます。左ののぼりが目印です。場所や営業時間は、無料で配布している「農さんぼマップ」をチェック。



SPOT



自由学園

独自の一貫教育を行う「学校法人自由学園」。昭和6年(1931年)に建築の「初等部食堂」をはじめ、広大な敷地内の建造物の数々は「東京都選定歴史的建造物」に選定されています。「しのみ茶寮」のカフェではショップでパンやクッキーなども購入できます。
※通常、建物の見学は受け付けておりません。公開行事などの機会に訪問ください。



村野家住宅(顧想園)

平成23年(2011年)に国の登録有形文化財に登録。顧想園という呼称は国木田独歩の随筆「武蔵野」の一節から。／柳窪4丁目15番(東久留米駅西口からバス15分、下車徒歩約10分) ※通常は非公開です。例年、春秋に特別見学会を実施。

柳久保小麦

嘉永3年(1850年)、現在の柳窪に住んでいた奥住又右衛門が、旅先から持ち帰った小麦の種を品種改良し生まれたと言われていいます。丈が高く太いのが特徴で、粘りが強く、香りや風味に優れていたため、うどん用の小麦として評判になりました。一方、丈が高い分、倒れやすく量産が困難なため、戦時中の食糧増産施策により1940年代に姿を消し、「幻の小麦」となりました。しかし、昭和63年(1988年)、又右衛門のご子孫の熱意により見事復活を果たし、伝統小麦を守り継ぐため、市内の農業者が協力して現在も栽培を続けています。



東京都
第1位

作付
述べ面積

4ha

収穫量

8t

※柳久保小麦を含む
市内の小麦。

東久留米今昔 写真で振り返る歴史

昔を振り返り、そして今を見ると、まちの発展がよくわかります。市制施行50周年という節目の今、50年後、さらにその先の、未来の東久留米を心に描いてみませんか。

駅



昭和44年 1969



NOW

まちの玄関口 東久留米駅

2階に展望スペース「富士見テラス」を設けた駅舎は、平成6年(1994年)に完成しました。駅の開業当初は北口しかありませんでしたが、新たに西口、東口が設けられ、平成11年(1999年)には「関東の駅百選」に選定されています。赤い噴水彫刻のある西口は、「まろにえ富士見通り」へとつながります。



昭和37年 1962

上の原地区



NOW

癒しと商いの新たなエリア

まちづくりが進む上の原地区は、大きく姿を変え、大規模開発により平成30年(2018年)から日帰り温浴施設や大型商業施設などがオープンし、また新たな屋外運動施設も整備され、まちの風景が様変わりしてきています。



1972 昭和47年 郷土資料室所蔵写真

道

日常を支える道路

道がなかったところに新たな道が。東久留米駅西口から市役所本庁舎の前を通る市道、通称「まろにえ富士見通り」は、ちょうど正面に富士山が見える絶景スポットです。初夏の頃には、通りの名称の由来になっているマロニエ(ペニバナトチノキ)がピンク色の花を咲かせます。



NOW



昭和40年 1965

市役所

まちの発展の証

「東久留米市」が生まれる前、「久留米町」の町役場は昭和38年(1963年)に落成しました。東久留米駅のほど近くにある現在の市役所本庁舎には、平成9年(1997年)に移転。ガラス張りの1、2階は吹き抜けになっており、「市民プラザひろば」として開かれています。



NOW

商店街



昭和45年 1970



NOW

時代を映すまち並み

時が移ろい、建ち並ぶ店の種類は変わっても、商店街には今も昔も人の営みが息づいています。昭和45年(1970年)頃の駅前商店街では、生活用品や食事処が軒を連ねていました。現在では、駅前から団地のそばまで、14の商店街が市内のあちこちにありま

緑に囲まれたベッドタウン

市内には、大規模団地の先駆けとして昭和34年(1959年)に入居がはじまった「ひばりが丘団地」に続き、「東久留米団地(上の原団地)」、「滝山団地」がわずか10年ほどの間に完成しました。湧水の豊かな東久留米らしく、備えられた公園の池で水遊びをする様子も。建て替えや改装で生まれ変わり、今もおお多くの市民が暮らしています。

住宅







昭和41年 1966



NOW

東久留米の歴史をたどる

- 旧石器時代**
のちに東久留米となるエリアで人類が暮らしはじめる
市指定史跡・文化財「小山台遺跡」(旧石器~縄文時代)
都指定史跡・文化財「下里本邑遺跡」(旧石器~平安時代)
- 縄文時代**
都指定史跡・文化財「新山遺跡」

獣面付土器/多聞寺前遺跡から出土した土器の装飾はイノシシと推測されています。
郷土資料室所蔵写真
- 安土桃山時代**
市指定有形文化財「天正十一年板碑」
- 江戸時代**
市指定有形文化財「加藤清正虎退治絵馬」
国登録有形文化財「村野家住宅」(江戸~大正時代)
都指定史跡・文化財「米津家墓所」
市指定史跡・文化財「柳窪梅林の碑」
市指定有形文化財「多聞寺山門」
- 明治時代**
明治22年(1889年)久留米村が誕生
- 大正時代**
大正4年(1915年)武蔵野鉄道(現西武池袋線)開通

大正8年(1919年)当時の村役場
- 昭和時代**
昭和31年(1956年)町制が施行され、久留米町となる
昭和45年(1970年)東京都22番目の市として東久留米市が誕生

市制施行式典
- 平成時代**
平成9年(1997年)市役所本庁舎(現庁舎)開庁
- 令和**
令和2年(2020年)市制施行50周年を迎える


未来へ

※個別に典拠の記載がない大正8年~昭和47年の画像:出典「光の文響詩」10